はじめに

名古屋駅の南に位置する旧国鉄笹島貨物駅跡地の約12.4haと中川運河船だまり周辺を含む「ささしまライブ24」では、国際歓迎･交流の拠点を目指したまちづくりを行っています。

この地区の歴史をひもときますと、明治19年、現在の笹島交差点付近に旧名古屋駅が開業したことに始まります。現在の位置に名古屋駅が移った後、昭和12年に笹島貨物駅が開設され、隣接する中川運河とともに物流の一大拠点として機能してきました。昭和61年に貨物駅が廃止された後は、都心部に残された希少な大規模遊休地となっていましたが、新たなまちづくりに向けた土地利用への転換を図るため、平成11年度から本市施行の土地区画整理事業を進めています。

これまで、都市基盤の整備が鋭意進められ、貨物駅跡地部分の開発がほぼ完了し、平成29年10月にはまちびらきが行われました。また、平成30年9月には都市計画道路椿町線や笹島線の本線部が開通し、名古屋駅周辺の交通状況が大きく改善するとともに、地区の活性化が期待されるところです。

今後も引き続き、リニア中央新幹線の開業も見据え、名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい活気と魅力に満ちた「ささしまライブ24」の実現を目指していきます。

位置図

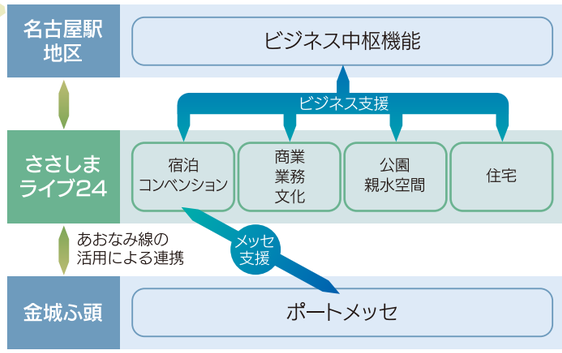
輝き出す、名古屋駅南エリア
響き合う、国際・交流・知のステージ

国際歓迎・交流の拠点をめざして

本市の「名古屋市都市計画マスタープラン」では、当地区を「国際的･広域的な商業･業務機能などの集積を誘導し、国内外から訪れる人々や市民でにぎわう交流の場を提供する『国際歓迎･交流の拠点』の形成をめざします」と位置付けています。こうした考えをもとに、4つのゾーンの土地利用計画を定めました。

開発コンセプト

- 「国際歓迎・交流拠点」の形成を目指したにぎわいのある複合型まちづくりを進める
- 「交流」「環境」「防災」をキーワードとしたまちづくりを推進する
- 名古屋駅地区のビジネス支援と、ポートメッセの支援の役割を担う
- そのための機能として、①宿泊・コンベンション ②商業・業務・文化 ③公園・親水空間 ④住宅 の導入を図る

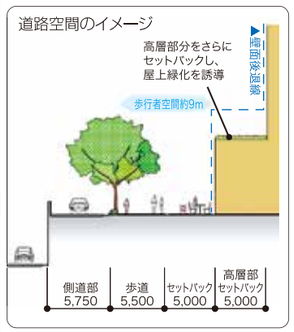


土地利用計画 <地区整備方針(抜粋)>

ビジネス支援・国際交流ゾーン
「国際歓迎・交流拠点」としてのイメージを形成する施設が立地するゾーン

商業・文化・にぎわいゾーン
当地区へ人を引き寄せるにぎわい施設が立地するゾーン

シンボル軸のイメージ



複合都心居住ゾーン
都心居住とこれを支える生活利便施設が立地するゾーン

親水・都市防災ゾーン
船だまりを中心にした親水空間と、公園を中心に災害時に活用できる防災機能を併せ持つゾーン